



## 第27回 日韓司教交流会



◀ カトリックジャパンニュースの記事

昨年11月18日（火）から20日（木）まで、第27回日韓司教交流会が広島で開催され、日韓の枢機卿・司教たち33人が集まりました。テーマは「戦後80年の傷跡と希望」若い世代に平和をつなぐために、

A group photo of four clergymen standing in front of a banner. The banner has text in Korean and English: '제27회 한일주교교류모임' and '第27回 日韓司教交流会'. The clergymen are wearing clerical attire, including black robes and red stoles.

昨年11月18日（火）から20日（木）まで、第27回日韓司教交流会が広島で開催され、日韓の枢機卿・司教たち33人が集まりました。テーマは「戦後80年の傷跡と希望」若い世代に平和をつなぐために」と。今回の交流会の中で韓国司教協議会議長・李容（ヨン・イ）韓先生が、船は荒れた波を乗り越え、海を進むために存在しています。港に停泊している船は決して目的としているときが最も安全ですが、船は停泊するためには作られたものではない」という格言を引用して話をなされました。

のではなく、将来、海に向かって進んでいくための勇気を与えてくれる「平和」なのです。私たち日韓の司教たちの交流会の歴史は、まさにその福音的価値を積極的に実践してきた「勇気ある航海」の歴史と言えます

上五島地区合同堅信式  
が11月9日（日）14時から青方教会で中村倫明大司教司式のもと行われ  
中学生15人が堅信の秘跡を受けた。

がともにいてくださる  
堅信の時にいたたく聖靈  
はその証しである」と  
した。

日の福音(年間第33主日)  
について解説しながら、  
「神様はどんな時も皆さん  
のことを愛しておられ  
る、何があつても皆さん



語っていた。中村倫明大司教も実行委員の一人。現地からの招きに応えて訪れた高見三明名誉大司教は、ド・ロ・神父さまの故郷を訪ね、神父さまの妹の子孫と会い、レンヌ近郊の学園都市で長崎のキリシタントリック・テレビ局の番組に出演するなどした。また、展示会との関連でシリヴィ・森下氏（キリシタン史専門家）による『16世紀から21世紀までの長崎の諸様相』と題した講演もパリ日本文化会館で行われた。

2025年度  
教区司祭黙想会

# 『平和の芸術、 長崎1945』 パリで展示会開催

長崎 1945年8月

は1500人ほどだったが、長崎の被爆や永井博士、そして浦上のキリスト教徒の歴史についてフランス人に知っていただく

区の2司教と撮影した1枚。中村大司教の左が賣吉大司教、左端が張信浩補佐司教。右端は中央協議会に派遣中の尾高修一神父。

（中村倫明）

上五島地区合同堅信式が11月9日(日)14時から青方教会で中村倫明太司教司式のもと行われ中学生15人が堅信の秘跡を受けた。

大司教は説教の中で受堅者だけでなく集まつた人たちに対し、「私たちとは祈りを忘れていないだらうか、言印を忘れていい

がともにいてくださる  
堅信の時にいたたく聖靈  
はその証しである」とさ  
した。

2025年度  
教区司祭默想会

**訂正** 本紙2025年12月号の記事に誤りがありました。訂正いたします。

A photograph showing a group of people in traditional attire, including white blouses and dark skirts, gathered in a church. They are standing near wooden pews, some holding small objects. The church features large, colorful stained-glass windows in the background.

長崎南地区合同堅信式が11月16日（日）14時から木鉢教会で中村倫明大司教の主司式によつて行われた。地区内の10の小教区から28人（中学生26、大人2）が堅信の秘跡を受けた。

堅信の儀に先立ち、中村大司教は説教の中で当人のこと」とも説いた。

さらに「堅信は信者として大人になる秘跡だと言われることがあるが、信者として眞の大人になるというのは、私たち人間は自分一人では何もできなきことを自覚した上で、素直に神様の助けを祈り求めることができる」とも説いた。

## 堅信の秘跡を受けて

と抱きしめてくれる神様



二〇二六年  
謹賀新年





## 黒瀬の辻殉教祭

心を一つに祈りささげる

設営がなされ午後からの式に臨んだ。6人の司祭と約120人の信徒が心を一つに殉教者に思いをはせた。

説教は当山田教会の主任・竹内英次神父が担当した。竹内神父は前任地天草の福者であるアダム荒川について、またパリミッションの宣教師が貧しい環境で苦しむ子どもたちの世話をために建てた施設があつた根引山について紹介し、「本日記念する生月の殉教者ガスパル西玄可もアダム荒川も共に188殉教者であり、どちらも同じように宣教師も司祭もいない貧しい地にあつて苦しむ信

徒と共に歩んだ」ことを語った。  
すぐ身近なところに何よりも神と隣人愛を大切にした殉教者がいたこと改めて心に留め、今を生きる私たちが神との結びつきを失わず、さまざまな困難に立ち向かう勇気を持つことができるよう願い、共に祈りをささげた。

(山田小教区)

## 練習の成果と信仰を發揮

女性部ソフトバレー教区大会

11月24日(月)、第6回長崎教区評議会女性部ソフトバレーボール教区大



会が、三菱重工総合体育館で行われた。それぞれの地区を勝ち抜いてきた精銳12チームで予選リーグを行い、勝ち上がった



結果は優勝・真手ノ浦教会、準優勝・真手ノ浦教会、3位・大崎教会B、紐差教会の各チーム。開会式には中村倫明大司教も参加し、皆に激励の言葉を送った。接戦が多く、白熱した試合が続き、得失点差で順位が決まった。チームも多かつた。

スポーツとしての好プレーもさることながら、作戦を駆使し弱点を狙うことでも、最後には相手をたたえる教会の集まりらしい大会となり、日頃の練習の成果と、日々の信仰が発揮される一日となつた。

## 子どもの姿に元気と癒やし

聖歌の集い——長崎3地区

11月24日(月)、浦上教会において、「希望の巡礼者」聖年の一連の行事の一つ「聖歌隊の祝祭」が教区典礼委員会の主催により行われた。参加者は約300人。プログラムは午前と午後を合わせて4部構成。この日はちょうど教皇フランシスコが来日されて丸6年。雰囲気作りも兼ねて、6年前の教皇来日時の映像がスクリーンに映された。

最初のプログラムは「みんなで歌う」。教皇訪日ミサの聖歌集の複製を手に、参加者全員でそのほとんどを歌つた。次に「みんなで聴く」。教区典礼委員会音楽部の下部組織「コラール長崎」による長崎が歌つた曲などを練習。最後は、中村倫明大司教式の聖年の練習。午後からはまず「みんなで練習」。歌ミサの受け答えと、コラールの独奏もあり、普段の演奏に耳を傾けた。



各地区の英語ミサ共同体が集う  
**「どこにいても、わたしたちはひとつ」**

**(神学生への援助物資)**  
昨年11月16日(日)平戸地評議会の代表者5人が長崎カトリック神学院を訪れ、神学生らのために同地区で集めた援助物資と寄付金を届けた。

**(小神学院創立記念ミサ)**  
2025年に創立160周年を迎えた長崎カトリック神学院は、記念日の12月8日(月)に中村倫明大司教主司式のもとミサを行い、司祭、助祭、神学生、信徒ら計30人余が祈った。

司教館を訪れ、神学生養成援助献金625万580円(小切手)を中村倫明大司教に手渡した。

司教館を訪れ、神学生養成援助献金625万580円(小切手)を中村倫明大司教に手渡した。

10時頃集合し、キヤン

プ

場はバーベキューの準備からすでにぎやかさに包まれ昼食、ゲームで盛り上がりは頂点に達した。その後の祈りの集いでは雰囲気は一転。講話を聴き、聖歌に包まれて静かな祈りの場となる。

参加者はフイリピンの被災地の方々と復興のため、5年に発行された。発行は平戸ザビエル記念教会共同発行・制作は聖母の騎士社。税別2000円。

**★道のさなか 中田藤太郎神父様を想う**

著者:近藤司  
ザビエル記念教会の信徒自身の祖父の叔父にあたる中田藤太郎神父についてまとめた1冊で、聖年、被爆80年にあたる2002年5月に発行された。発行は平戸ザビエル記念教会共同発行・制作は聖母の騎士社。税別2000円。

ひとびとの希望となつた若き神父の生涯。改めてその実像に迫ります。(紹介文から)著者は平戸

9月末からのセブ島沖地震と台風豪雨洪水による甚大な被害の余波が残る時期に、開催を遠慮する気持ちもあつたが、こんな時にこそ祈り、平和な時を分かち合うべきという同伴司祭たちの促しで開催に踏み切つた。参加者は、同伴司祭のアルベルト・マーフィル神父(フランシスコ会長崎修道院)と川口昭人神父(俵町教会)と共に、長崎諫崎教区の各英語ミサ共同体が一堂に集い、聖年キヤンブ「どこにいても、わたしたちはひとつ」を開催した。

加者は、同伴司祭のアルベルト・マーフィル神父(フランシスコ会長崎修道院)と共に、長崎諫崎教区の各英語ミサ共同体が一堂に集い、聖年キヤンブ「どこにいても、わたしたちはひとつ」を開催した。

加者は、同伴司祭のアルベルト・マーフィル神父(フランシスコ会長崎修道院)と共に、長崎諫崎教区の各英語ミサ共同体が一堂